

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490700356	事業の開始年月日	令和2年 2月 1日
		指定年月日	令和2年 2月 1日
法人名	ケアパートナー株式会社		
事業所名	ケアパートナー磯子中原・グループホーム		
所在地	(〒235-0036) 横浜市磯子区中原3-3-11		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員 通い定員 宿泊定員	名 名 名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計 ユニット数	18名 2ユニット
自己評価作成日	令和6年12月2日	評価結果 市町村受理日	令和7年6月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.care-partner.com/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアパートナーでは大切にすべき価値観として以下4つの「大切にすること」を掲げ日々業務にあたっています。 「安全を大切にすること」お客様の安全優先・些細な変化に気づき共有する。法令順守・5S活動を実施し安全な生活を支援します。 「サービスを大切にすること」趣味趣向を尊重し、自宅での生活に近い形で生活できるように支援し、自己決定を促しています。 「成長・改善を大切にすること」社内社外研修の充実させスタッフの自己成長に取り組んでいます。 「地域を大切にすること」隣接する自社運営「キッズパートナー」(保育園)との交流を行い、地域ケアの一端を担っています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和6年12月26日	評価機関 評価決定日	令和7年5月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所は京浜急行本線屏風ヶ浦駅から徒歩で10分程の住宅街にある鉄骨造2階建て、2ユニットのグループホームで、1階には同法人が運営する保育園を併設している。園児がハロウィンの行事で事業所を訪れ、利用者はお菓子を配るなどして交流している。毎日、元気な子供たちの声が聞こえる環境にある。 【理念の共有と実践】 経営理念を基に、4項目から成る「たいせつにすること①安全を大切にする＝お客様の安全優先、②サービスを大切にする＝自己決定を促す、③改善・成長を大切にする＝社内社外研修を充実、④地域を大切にする＝隣接する保育園との交流」を日々のケアの原則として捉えている。事業所の理念としては「信頼する仲間と信頼されるサービスを」を掲げている。理念を共有し実践に繋げるために、入居を「預かった」と考えるのではなく、家庭の延長としてとらえ、家族と一緒に介護しましょうというスタンスで、日頃からサービス提供している。 【職員の成長を支援する取組み】 法人の研修計画に従って、年に数回、理念・認知症及び認知症ケア・虐待防止などの内容の研修を、個別のeラーニングによって実施している。法人指定の研修を事業所の全体会議の中で毎月行い、看取り・認知症・プライバシー保護及び権利擁護の研修等を適時行っている。横浜市から届く案内にある研修(調理・薬剤・感染症)を管理者が受講して、事業所内で伝達研修を行っている。また、法人では、資格取得支援として、介護福祉士や認知症基礎研修などの資格取得の際に、勤務時間や費用を補助する制度がある。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ケアパートナー磯子中原グループホーム
ユニット名	1 階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入社員に経営理念とその経営理念を達成するための価値観を「たいせつにすること」とし説明をしている。毎月のセンター全体会議でも共有をしている。必要に応じ各個人との面談を実施しています。	法人の経営理念を基に、4項目から成る「たいせつにすること」を日々のケアの原則として捉え、事業所の理念としては「信頼する仲間と信頼されるサービスを」を掲げている。不定期に実施している「ケアパートナー検定」の中で理念に関するチェックをしている。ICカード（タイムカード）の裏面に法人理念を明示し常に携帯するとともに、全体会議や人事考課の個人目標作成時などに理念を共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	キッズパートナー保育園との交流も状況に応じての実施しております。ご家族の対応においても密を避けるようご案内し対応しています。	管理者が自主的に行っている「道路掃除」等を通して近隣住民と挨拶を交わしている。開設当初から申請している地元・中原自治会への加入は未だ実現に至っていない。そのため、運営推進会議に出席している地区の民生委員から地域の情報を得ている。併設の保育園の園児とは、敬老会やハロウィンなど月1回程度の催しで交流している。現在、ボランティア活動者は受けていない。	自治会や住民との交流がほぼ皆無に等しい状況が見受けられます。自治会への加入や、自治会長等の運営推進会議への出席が叶うように、事業所側から積極的に働き掛けることを希望します。更には、地域とのより良い関係性が構築され、事業所行事への参加や防災訓練への協力依を得られる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流においてはほとんどありません。隣接するキッズパートナーとは季節のイベント毎に計画しますが感染症のため中止もあります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は系列の磯子杉田グループホーム、アスウェル（通所介護）と共催し実施し、ご家族の参加も案内し、結果を掲示、こちらからの情報共有も行っております。	運営推進会議は、近隣にある同一法人が運営する3事業所が合同で奇数月に対面で開催している。構成メンバーは、民生委員、地域ケアプラザの職員及び当法人の各事業所管理者となっている。家族に送付する毎月の「お知らせ」の中で参加を呼び掛けており、持ち回り会場が当事業所の月の運営推進会議には2～3名の出席がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法令関係においては社内の担当者が市区町村と連絡を取り合い対応しています。お客様に関する事案はセンター長、計画作成担当者が担当ケースワーカーと対応しています。	運営推進会議の報告書は、磯子区の高齢・障害支援課に郵送している。生活保護費受給の利用者が1名おり、区的生活支援課とは、電話で相談や定期的状況報告をしている。介護保険要介護認定の更新手続きには、磯子区の介護保険課の窓口に出向いている。地域包括支援センターとは、ケアマネジャーの照会や認知症サポーターの宣伝に協力している。横浜市のグループホーム連絡会に加入しており、事業所の稼働状況等、情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	社内研修、センター全体研修を通じ、チェックリストを活用しながら具体的な行為においても触れる研修を行っています。	指針・マニュアルを整備している。法人指定の「安全衛生委員会」の中で、年2回身体拘束について話し合い議事録も作成している。事業所の全体会議の中でも身体拘束適正化委員会や研修を行っている。家族の同意の上で、転倒転落予防のため夜間3名の利用者に離床センサーを使用している。全体研修を通じて、チェックリストを活用し自己点検を行っている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の年間研修に組み込まれており、実施している。職員同士や職員と入居者様のなれ合いが発生しないよう、併せて接遇・マナー研修も実施しています。	毎月の安全衛生委員会の中で、年2回、虐待防止について話し合い、議事録も作成している。全体会議の中で虐待防止委員会と研修を行い、虐待があった場合の対応について周知している。年1回、職員は各自のスマートフォンから法人のサイトに直接アクセスし、「ストレスチェック」を行っている。その集計結果を事業所の全体会議で共有し、虐待の防止に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修にて実施しています。 実際に後見人のついた入居者様がいるので対応方法を実践しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームの趣旨・弊社との取り決めの説明をしています。今後発生しうる事象についても契約時に説明し、ご理解を得てから契約の流れとしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や電話連絡の際には近況報告やほかに要望がないか等ご意見をいただくようにしています。年1回家族懇談会を開催しています。	入所時のほかケアプランの更新時、来所や電話をした際に、計画作成担当者が家族の意見を聞き取っている。毎月「お知らせ」の手紙を請求書に同封し、日頃の様子や行事での利用者の写真などを添えて家族に送付し、意見を聞いている。年1回、直近では12月1日に「ご家族懇談会」を開催し、4家族7名の家族が参加した。家族からの要望で、外出の際の面会時間を19時30分まで延長している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務に関する提案・発言がしやすいよう業務整備を行っています。なかなか意思表示が難しい職員にはこちらから話しかけるようにしています。	利用者に関する事項は、日々の申し送りや「カンファレンスシート」に記入し、毎月開催している事業所の全体会議で検討し、利用者の計画更新や日頃のケアに反映している。年2回の人事考課の際に、本社がWEB上で行う自己評価の中で職員が意見や提案をして、必要に応じて個人面談を実施している。職員は各々、役割を担っている。レクリエーションや行事の企画は行事担当が主導している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内で年2回自己評価を行っています。自己の目標や目指すところも申告するようになっており、資格取得制度についても金銭的な負担と参加しやすいシフト配慮を行っています。	事務室に防犯カメラが設置され、夜勤者が玄関や各階共用部分の様子をモニター上で確認できる。有給休暇は職員が年間計画を本社に提出し、計画通りに取得している。誕生日の月を含む前後1ヵ月内に1日の特別休暇が全職員に付与される。人事考課制度を定め、職員は、年2回、WEB上で自己評価を行い、資格取得などの希望を申告している。勤務シフト表の作成や行事計画などの業務を職員に任せ、向上心を持って働けるように配慮している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、センター会議他、インターネットを使用したeラーニングも採用しています。必要に応じ、その場で実技指導など実施している。	研修計画に従って、年に数回、理念、認知症及び認知症ケア、虐待防止などをテーマにした研修を個別のeラーニングによって実施している。全体会議では本社より届く研修資料に、管理者が事業所向けに手を加えて法定研修を行っている。介護福祉士やケアマネジャーなどの外部研修受講時には、出勤扱いで交通費を支給するなどの資格取得支援制度を導入している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会へ入会していますが、現状参加のめどは立っておりません。人員配置状況の改善後に参加できるように配慮したい。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約を交わす前に必ずご家族様及びご本人様と面談を実施しています。アセスメントや要望・困りごとを聞くようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前見学に来られた際や面談を行った際に困りごとや不安に感じていることを聞き、正確かつ早いレスポンスを心がけ、入居日前にも電話等で聞き取りを実施しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様と面談した際にグループホームとしてできること・できないことを説明し御理解いただいています。生活面・ニーズについても環境の変化を最小限にするべく配慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の家にサービスをするために来ているという認識で、居室に入る際はノックをする等の基本的動作を大切にしています。生活の中での掃除など出来る範囲のことはしていただくように配慮、職員側からの感謝も伝えるようにしております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様で行えること（受診応・備品購入）は極力ご対応のお願いをしています。機会ごとに近況報告を行い、出来ることの協力を依頼、面会も遠慮なく来ていただくようお話ししています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	郵便や電話のやりとりの支援や個人（入居者）の携帯持ち込みも可能としています。	家族対応で馴染みの場所やお墓参り等に出掛け、一時的に自宅に立ち寄る方や家族と一緒に食事をする方がいる。家族や馴染みの人との電話を希望する方には、取り次ぎ支援を行い、関係が途切れないように支援している。携帯電話を事務所で預かり、掛かって来た際に取り次いでいる方もいる。クリーニング店を営んでいた利用者が、習慣的に洗濯物たたみに係わっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様のADLや性格を把握してトラブルのないよう工夫をして席を配置しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後においても必要に応じてご家族様と連絡を取り合い、現況報告、問合せできるよう対応しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	契約時や面会時にニーズや困りごとを聞き好みや希望を把握し会話の中から生活に対する想いをくみ取るようにしています。	利用開始時のアセスメントで利用者の生活歴を把握し、日々の関わりの中で利用者や家族から希望や思いを聞いている。職員と密になる入浴や買い物時の会話で意向を把握する事も多く、把握した内容はタブレットの申し送りに入力し、申し送りノートにも記入して、職員全員が共有している。意向の把握が困難な方的場合、表情は都度変わるため推測し難く、家族に好きな物や服装の好みを聞いて対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に聞き取りを行い入居後においても同様に対応できるよう意識しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前カンファレンスを開催し共有をしています。 健康状態は日々のバイタルチェック・体重、食事量・排泄回数等を記録し把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス実施し、個々の状態を確認し支援方法を考えている ご家族からの意見も計画書へ反映しています。	ケアマネジャーと計画作成担当者が3ヶ月に1度の短期目標期限に合わせてモニタリングシート（電子記録）を作成している。介護計画を反映した「カンファレンスシート」「ケアチェック表」「課題総括表」で見直し、計画に沿ったサービスが提供出来ているかを確認している。家族や医師などの意見を踏まえ介護計画書を作成し、暫定目標3か月、その後は短期目標6か月～1年、長期目標は介護保険期間満了までとし、途中で変化があれば都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットにタイムリーに記録の記載ができるようにしています。全体会議やカンファレンスで意見交換し計画書へ反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状況変化によるサービスに変更が必要な場合は協力医療機関の医師、看護師、相談員とよく連携し助言を求めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園との交流行事を継続しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所として協力医療機関、訪問診療の医師との連携を行っている。入居後も在宅でのかかりつけ医で受診できるよう配慮しております。専門外の場合は主治医より紹介していただいております。	3ヶ所の協力医療機関の内科医が、それぞれ月2回の訪問診療を行っている。訪問看護師が週1回来所し、24時間対応で利用者の健康観察をしている。協力医療機関の訪問歯科医は月2回来所し、利用者全員の口腔ケアを行うと共に、必要な方には個別契約で診療を行っている。薬剤は指定の薬局と医師で連携し、薬剤の調整を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療、訪問看護と連携しています。それぞれ事業所が中心となり情報共有しています。訪問看護で健康チェックを行っています。24時間対応も可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった際サマリーを入院先に提出し情報提供をしています。退院時には事前の情報共有を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族の意向を聞き、重度化した場合の指針を明示しています。また、加算についての説明も納得いただけるよう説明しています。同意を得た方には継続するかどうか、困りごとはないかの確認をしております。	入居時に「重度化した場合における対応に関する指針」で事業所の方針を説明し、意思確認し同意書を交わしている。終末期には医師と家族と管理者の三者で話し合い、看取りに関する説明を行って、再度同意確認すると共に看取り計画による看取り介護に入る。現在2名の利用者が看取り介護に入っており、昨年度は1名の看取り実績がある。看取りに関する研修は、年1回管理者が全体会議の中で行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修にて事故防止に関する研修を実施している。 またいつでも閲覧できるマニュアルも設置し対応している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合避難訓練、BCP対応訓練を実施しております。	年2回夜間想定を含めた火災と地震・避難の総合防災訓練を実施し、消防署への報告も行っている。事務室に法人と事業所の緊急時連絡先を掲示し、「備品耐震対策チェックリスト」に従って耐震対策状況の確認をしている。備蓄品として水や米などを1週間分と消耗品、災害用備品を確保している。BCPを法人で作成し、対応訓練も行っている。法人内の近隣事業所とは、日頃から人員の応援体制や非常時の協力体制について話し合っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通じ接遇マナーや権利擁護を取り入れ、プライバシーに配慮した言葉かけを心がけている。	「認知症」や「プライバシー保護」「権利擁護」の研修を行い、利用者の羞恥心などに配慮するよう職員に伝えている。入浴時は、脱衣所にカーテンを引き、トイレでの排泄では必ず扉を閉めて行うと共に、におい対策として消臭スプレーを使用して人格を損なわないように気を付けている。利用者と呼び掛ける際は、名字に「さん付け」を基本にしているが、職員間で話す際は部屋番号を使うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の準備や洗濯ものたたみ等をご本人に提案し、ご自分で選択できるよう声掛けしております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の趣味や生活のペースを把握し楽しみを持ちくつろいで生活できるよう支援している。就寝起床時間、夜間の睡眠状況も個々のペースに合わせ柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりやおしゃれを尊重し季節感にあった衣類を促すように対応している。 また、訪問理美容で気分も前向きになれるように対応している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	業者からの食事配達となっておりませんが、季節感のあるメニューや行事食を提供できるようになっています。 洗い物や食器拭きも一緒にやるよう対応しています。	主菜や副菜などは専門業者からメニューに従って届く食材を湯煎し盛り付けて提供している。ご飯と汁物は朝食は夜勤者・昼食は日勤・夕食は遅番の職員が調理している。利用者は食器拭きや下膳などを手伝っている。誕生日や行事食ではケーキや特別食を提供し、利用者の希望を取り入れた「イベント調理」として、ケーキやお好み焼きを職員と利用者が一緒に調理して、楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立により栄養バランスはとれている。食形態においても柔軟に対応。主食量も個別に増減の対応、水分量も同様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しています。必要に応じて介助も行っています。 訪問歯科による定期的なケアも実施しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し適切な時間帯に排泄のお声がけ・対応ができるようにしています。	紙おむつを使用している方が2名おり、他の方はリハビリパンツにパッドを使用している。排泄状況を職員がタブレットに入力して排泄パターンを把握し、定時誘導と声がけを行い、全員がトイレで排泄している。リハビリパンツを使用していた方で電子記録の「排泄チェック表」から排尿時間を割り出し、支援を続けた結果、大きなパッドから小さなパッドに変更になったり、パッドの当て方によって使用枚数が減った事例がある。夜間のみポータブルトイレを使用する方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を用いて最終排便の日を共有し、水分量調整や寒天をおやつに追加するなどの対応を行っています。また訪問診療時に医師と相談、家族とも情報共有しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回は入れるよう入浴表を活用していますが、ご本人の意を汲みその日の入浴が難しいようであれば別日で対応するなどの対策を取っています。	利用者は概ね週2回、一日3名が入浴している。お湯は、ひとり入浴することに入れ替えている。脱衣所と浴室の温度差に配慮し、エアコンを使用してヒートショック対策を講じている。入浴を好まない方には、朝から今日は入浴日だと伝えて心構えをして貰うほか、手を変え、人を変え、曜日を変えたりして、根気よく声掛けしている。人工肛門の方が専用のボディソープを使用したり、家族が用意した好みのシャンプーを使用する方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は寝巻への更衣を原則とし、生活習慣やその時々状況に応じて日中においても居室でくつろげるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬管理表や薬の一包化など、誤薬リスクを考えた対応を行い、実際の内服時は2名で必ず確認し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯物たたみ、掃き掃除、郵便をポストに取りに行く等を通じ、入居者様に役割を持っていただくよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦において施設周辺の散歩程度に留めていりましたが、面会・外出ともに徐々に緩和し、家族との外食、買い物など外出できるように支援しております。特に散歩、外出はご家族にお願いしております。	外出や散歩は基本的に家族に依頼して、面会の時に行っており、時には近くのコンビニエンスストアで買い物をすることもある。利用者は一人で歩ける方は少なく、外出を好まない方は天気の良い日に玄関前や駐車場で外気浴をして気分転換している。以前は外出行事としてドライブに出かけていたが、今年度はインフルエンザやコロナの影響で実施出来ず、外出の代わりに事業所内で保育園児との交流イベントを実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品のご持参は基本にご遠慮いただいておりますが、欲しいものについてはご家族と相談の上対応するようにしています。少額であればご自身で所持されている方もおります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により事業所の電話を取り次ぎ、使用、個人の携帯電話の使用の支援、郵便物の支援を行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは窓が2か所あり、採光状態は良好です。空調に関しても直接風が当たらないよう配慮、温度管理もしています。	リビングは日当たりが良好で、広々としたスペースが確保されている。エアコンや加湿機能付きの空気清浄機を設置し、温湿度管理をしている。午前と午後に1回ずつ窓を開けて室内の換気をしている。リビングや廊下の壁には、季節に合わせて秋の紅葉等の作品を飾っているが、利用者の意見を尊重してスッキリとした印象を心掛けている。共用空間の清掃は介護職員が区域を分担して担当し、チェックリストに従って手分けして行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様同士の相性を把握し、会話を楽しめるよう配慮しています。また、席においても窓側やテレビが見える席など、可能な限りで配慮できるようにしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より使用していた家具などを引き続きご使用いただくことで、安心していただける空間づくりをしています。 ご家族様にも面会時に座るイスがご家族に用意していたきくつろぐ等、入居後に追加したい場合も対応可能です。	居室は直線廊下に沿って配置されて、分かりやすい。使い慣れた机や家族のための椅子、タンス、時計、テレビ、御位牌、クッション等を持ち込み、カレンダーや家族の写真、貼り絵や保育園児からの絵などを飾って、利用者各々の個性が感じられる居室になっている。居室の清掃は、職員に手伝って貰いながら、利用者各自でハンドクリーナーやモップ掛けを行っており、毎朝必ず窓を開けて換気を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように大きく表示したり、必要な情報が視覚から取り入れられるよう配慮しています。廊下が長いいため歩くことを意識して励ましながら歩行するようにしていただいております。		

事業所名	ケアパートナー磯子中原グループホーム
ユニット名	2階

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入社員に経営理念とその経営理念を達成するための価値観を「たいせつにすること」とし説明をしている。毎月のセンター全体会議でも共有をしている。必要に応じ各個人との面談を実施しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	キッズパートナー保育園との交流も状況に応じての実施しております。ご家族の対応においても密を避けるようご案内し対応しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流においてはほとんどありません。隣接するキッズパートナーとは季節のイベント毎に計画しますが感染症のため中止もあります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は系列の磯子杉田グループホーム、アスウェル（通所介護）と共催し実施し、ご家族の参加も案内し、結果を掲示、こちらからの情報共有も行っております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法令関係においては社内の担当者が市区町村と連絡を取り合い対応しています。 お客様に関する事案はセンター長、計画作成担当者が担当ケースワーカーと対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	社内研修、センター全体研修を通じ、チェックリストを活用しながら具体的な行為においても触れる研修を行っています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の年間研修に組み込まれており、実施している。職員同士や職員と入居者様のなれ合いが発生しないよう、併せて接遇・マナー研修も実施しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修にて実施しています。実際に後見人のついた入居者様がいますので対応方法を実践しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームの趣旨・弊社との取り決めの説明をしています。今後発生しうる事象についても契約時に説明し、ご理解を得てから契約の流れとしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や電話連絡の際には近況報告やほかに要望がないか等ご意見をいただくようにしています。年1回家族懇談会を開催しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務に関する提案・発言がしやすいよう業務整備を行っています。なかなか意思表示が難しい職員にはこちらから話しかけるようにしています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内で年2回自己評価を行っています。自己の目標や目指すところも申告するようになっており、資格取得制度についても金銭的な負担と参加しやすいシフト配慮を行っています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、センター会議他、インターネットを使用したeラーニングも採用しています。必要に応じ、その場で実技指導など実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会へ入会していますが、現状参加のめどは立っておりません。人員配置状況の改善後に参加できるように配慮したい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約を交わす前に必ずご家族様及びご本人様と面談を実施しています。アセスメントや要望・困りごとを聞くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前見学に来られた際や面談を行った際に困りごとや不安に感じていることを聞き、正確かつ早いレスポンスを心がけ、入居日前にも電話等で聞き取りを実施しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様と面談した際にグループホームとしてできること・できないことを説明し御理解いただいています。生活面・ニーズについても環境の変化を最小限にするべく配慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の家にサービスをするために来ているという認識で、居室に入る際はノックをする等の基本的動作を大切にしています。生活の中での掃除など出来る範囲のことはしていただくように配慮、職員側からの感謝も伝えるようにしております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様で行えること（受診応・備品購入）は極力ご対応のお願いをしています。機会ごとに近況報告を行い、出来ることの協力を依頼、面会も遠慮なく来ていただくようお話ししています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	郵便や電話のやりとりの支援や個人（入居者）の携帯持ち込みも可能としています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様のADLや性格を把握してトラブルのないよう工夫をして席を配置しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後においても必要に応じてご家族様と連絡を取り合い、現況報告、問合せできるよう対応しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	契約時や面会時にニーズや困りごとを聞き好みや希望を把握し会話の中から生活に対する想いをくみ取るようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に聞き取りを行い入居後においても同様に対応できるよう意識しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前カンファレンスを開催し共有をしています。 健康状態は日々のバイタルチェック・体重、食事量・排泄回数等を記録し把握に努めています。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス実施し、個々の状態を確認し支援方法を考えている ご家族からの意見も計画書へ反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットにタイムリーに記録の記載ができるようにしています。全体会議やカンファレンスで意見交換し計画書へ反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状況変化によるサービスに変更が必要な場合は協力医療機関の医師、看護師、相談員とよく連携し助言を求めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園との交流行事を継続しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所として協力医療機関、訪問診療の医師との連携を行っている。入居後も在宅でのかかりつけ医で受診できるよう配慮しております。専門外の場合は主治医より紹介していただいております。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療、訪問看護と連携しています。それぞれ事業所が中心となり情報共有しています。訪問看護で健康チェックを行っていただいています。24時間対応も可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった際サマリーを入院先に提出し情報提供をしています。退院時には事前の情報共有を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族の意向を聞き、重度化した場合の指針を明示しています。また、加算についての説明も納得いただけるよう説明しています。同意を得た方には継続するかどうか、困りごとはないかの確認をしております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修にて事故防止に関する研修を実施している。 またいつでも閲覧できるマニュアルも設置し対応している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合避難訓練、BCP対応訓練を実施しております。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通じ接遇マナーや権利擁護を取り入れ、プライバシーに配慮した言葉かけを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の準備や洗濯ものたたみ等をご本人に提案し、ご自分で選択できるよう声掛けしております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の趣味や生活のペースを把握し楽しみを持ちくつろいで生活できるよう支援している。就寝起床時間、夜間の睡眠状況も個々のペースに合わせ柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりやおしゃれを尊重し季節感にあった衣類を促すように対応している。 また、訪問理美容で気分も前向きになれるように対応している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	業者からの食事配達となっておりますが、季節感のあるメニューや行事食を提供できるようになっています。 洗い物や食器拭きも一緒にやるよう対応しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立により栄養バランスはとれている。食形態においても柔軟に対応。主食量も個別に増減の対応、水分量も同様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しています。必要に応じて介助も行っています。 訪問歯科による定期的なケアも実施しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し適切な時間帯に排泄のお声がけ・対応ができるようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を用いて最終排便の日を共有し、水分量調整や寒天をおやつに追加するなどの対応を行っています。また訪問診療時に医師と相談、家族とも情報共有しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回は入れるよう入浴表を活用していますが、ご本人の意を汲みその日の入浴が難しいようであれば別日で対応するなどの対策を取っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は寝巻への更衣を原則とし、生活習慣やその時の状況に応じて日中においても居室でくつろげるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬管理表や薬の一包化など、誤薬リスクを考えた対応を行い、実際の内服時は2名で必ず確認し対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯物たたみ、掃き掃除、郵便をポストに取りに行く等を通じ、入居者様に役割を持っていただくよう配慮しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦において施設周辺の散歩程度に留めていおりましたが、面会・外出ともに徐々に緩和し、家族との外食、買い物など外出できるように支援しております。特に散歩、外出はご家族にお願いしております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品のご持参は基本にご遠慮いただいておりますが、欲しいものについてはご家族と相談の上対応するようにしています。少額であればご自身で所持されている方もおります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により事業所の電話を取り次ぎ、使用、個人の携帯電話の使用の支援、郵便物の支援を行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは窓が2か所あり、採光状態は良好です。空調に関しても直接風が当たらないよう配慮、温度管理もしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様同士の相性を把握し、会話を楽しめるよう配慮しています。また、席においても窓側やテレビが見える席など、可能な限りで配慮できるようにしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より使用していた家具などを引き続きご使用いただくことで、安心していただける空間づくりをしています。 ご家族様にも面会時に座るイスがご家族に用意していたきくつろぐ等、入居後に追加したい場合も対応可能です。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように大きく表示したり、必要な情報が視覚から取り入れられるよう配慮しています。廊下が長いいため歩くことを意識して励ましながら歩行するようにしていただいております。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 磯子中原グループホーム 1 階

作成日 2025. 6. 9

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	前々回、前回と評価時において運営推進会を実施することが課題であったが、昨年度から今年度実施は出来ており、家族の参加を促進しているが他専門職や地域の方の参加が乏しくサービス向上にいかせていない。	運営推進会議での利用者やサービスについて、そこでの意見を具体的なサービス向上に活かす。	運営推進会議の事前案内によるさらなる家族参加、地域の方々へ参加できるように依頼していく。	6ヶ月
2	2	地域交流が出来ていない。系列保育園と交流頻度は高くなってきているが、その他自治会加入も出来ておらず交流がはかれていない。	自治会行事への参加、交流をはかり、地域への貢献活動の実施と自社運営活動、サービス内容への反映を行う。	系列事業所と連携して自治会加入する。同町内の事業所とともに、地域行事、活動へ参加させていただく。	9月までを達成目標とする。
3	10	職員を育てる取り組みは前年度も実施。取り組みを通じて成長した職員もいるが、他者との共有や互いに教え合う環境には至っていない。	介護マニュアル、業務マニュアルで基本的事項の周知、徹底を行う。職員が意識的に行動できるようになる。	①施設の全体会議を通じて、学習したことを再周知し、その後それぞれの職員の力量を確認、面談、実践指導を行う。②指導できる職員の教育を行う。③資格所持者を中心に研修の一端を担い、意識向上につなげる。	1 年
4		前年度課題のBCPは策定し、実際の対応訓練、総合防災訓練は実施しているが、複合的な要因による作用は考慮していないこともあり、地域の参加も含めた対応、訓練が必要。	通常の避難訓練は継続するとともに、停電や土砂災害、地震が同時に発生した場合に対応できるようにする。管理者や本社と音信不通となっても初動対応としてその場にいる職員で事業継続できるようにする。	避難訓練は日勤帯、夜間帯など想定毎に実施する。作成してあるBCPマニュアルを参考に実際の災害キットを使用して少人数での訓練を行う。	年間を通じて実施（年3回予定）していく。

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

目 標 達 成 計 画

事業所名 磯子中原グループホーム2階

作成日 2025. 6. 9

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	前々回、前回と評価時において運営推進会を実施することが課題であったが、昨年度から今年度実施は出来ており、家族の参加を促進しているが他専門職や地域の方の参加が乏しくサービス向上にいかせていない。	運営推進会議での利用者やサービスについて、そこでの意見を具体的なサービス向上に活かす。	運営推進会議の事前案内によるさらなる家族参加、地域の方々へ参加できるように依頼していく。	6ヶ月
2	2	地域交流が出来ていない。系列保育園と交流頻度は高くなってきているが、その他自治会加入も出来ておらず交流がはかれていない。	自治会行事への参加、交流をはかり、地域への貢献活動の実施と自社運営活動、サービス内容への反映を行う。	系列事業所と連携し自治会加入する。同町内の事業所とともに、地域行事、活動へ参加させていただく。散歩や買い物外出の際の地域の店舗や住民への挨拶を徹底していく。	9月までを達成目標とする。
3	10	職員を育てる取り組みは前年度も実施。取り組みを通じて成長した職員もいるが、他者との共有や互いに教え合う環境には至っていない。	介護マニュアル、業務マニュアルで基本的事項の周知、徹底を行う。職員の意識向上を行う。	①施設の全体会議を通じて、学習したことを再周知し、その後それぞれの職員の力量を確認、面談、実践指導を行う。②指導できる職員の教育を行う。③資格所持者を中心に研修の一端を担い、意識向上につなげる。	1年
4		前年度課題のBCPは策定し、実際の対応訓練、総合防災訓練は実施しているが、複合的な要因による作用は考慮していないこともあり、地域の参加も含めた対応、訓練が必要。	通常の避難訓練は継続するとともに、停電や土砂災害、地震が同時に発生した場合に対応できるようにする。管理者や本社と音信不通となっても初動対応としてその場にいる職員で事業継続できるようにする。	避難訓練は日勤帯、夜間帯など想定毎に実施する。作成してあるBCPマニュアルを参考に実際の災害キットを使用して少人数での訓練を行う。2階から避難出来ないことも想定してホーム内でも出来る訓練を行う。	年間を通じて実施（年3回予定）していく。

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。